

Title	大阪大学歯学雑誌 第63巻2号 目次
Author(s)	
Citation	大阪大学歯学雑誌. 63(2)
Issue Date	2019-04
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/73671
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

大阪大学歯学雑誌

The Journal of Osaka University Dental Society

April 2019 Vol. **63** No. **2**

大阪大学歯学会

The Osaka University Dental Society
OSAKA JAPAN

大阪大学歯学雑誌

Vol. 63 No. 2 Contents

規 定

- 2019年度 大阪大学歯学会 優秀研究奨励賞 規定
2019年度 大阪大学歯学会 優秀海外発表大学院生奨励賞 公募要項

総 説

- アタッチメントが上顎インプラントオーバーデンチャーの
インプラントに及ぼす影響
—ボール, ロケーター, マグネットアタッチメントにおける比較— 高橋 利 士 (他3名) 1
In vitro 実験と数理科学の融合に基づく修復材料の高性能化の試み 山口 哲 7

症例報告

- 下顎深在性埋伏智歯に対して第二大臼歯の
意図的再植術を併用した抜去術の2例 藤田 祐 生 (他5名) 11

Information

- | | | | |
|-----------------------|----|--------------------|----|
| 会務報告 | 17 | 教室研究紹介 | |
| 大阪大学歯学会会則 | 23 | 大阪大学歯学部附属病院 | |
| デジタルデータ出稿の詳細 | 26 | 口腔総合診療部 (顎口腔総合医療学) | 29 |
| 引用文献の表記ルール | 26 | | |
| 歯学会雑誌原稿投稿時のセルフチェックシート | 27 | | |
| 誓約書 | 28 | | |

表紙のことば

【Enamel-Dentin Junctionの透過電子顕微鏡像】 歯質と材料(接着材)の界面を観察し続けた夜中、ふと視野を移動させて撮影した一枚。最上部はエナメル質、最下部は象牙質であるがその境界は明瞭ではない。結合状態は機械的に強固である一方、う蝕はこの部分で広がる。その理由としてJunction部にMMPs(Matrix Metalloproteinases)が多量に存在することが報告されており、MMPsは酸性下で活性化され、象牙質中のコラーゲン線維を加水分解する。(歯科補綴学第一教室)

規 定

- 平成 30 年度 大阪大学歯学会 優秀研究奨励賞 規定
 平成 30 年度 大阪大学歯学会 優秀海外発表大学院生奨励賞 公募要項

総 説

Streptococcus mutans の歯髄組織への定着における

- 菌体表層コラーゲン結合タンパクの影響 ————— 鋸 屋 侑布子 (他 2 名) 1
 Advanced statistical analyses to reduce inconsistency of bond strength data ——— 南 野 卓 也 (他 10 名) 5

症例報告

両側第二大臼歯の鉗状咬合と上下前歯部の唇側傾斜を認める、

- 骨格性上顎前突の一治験例 ————— 八 木 弘 子 (他 1 名) 9

Information

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 会務報告 ————— 15 | 教室研究紹介 |
| 大阪大学歯学会会則 ————— 21 | 大阪大学大学院歯学研究科 歯科麻酔学教室 ————— 27 |
| デジタルデータ出稿の詳細 ————— 24 | |
| 引用文献の表記ルール ————— 24 | |
| 歯学会雑誌原稿投稿時のセルフチェックシート — 25 | |
| 誓 約 書 ————— 26 | |